大分市に住む。

interview 01

生まれ育った大分市に貢献したい

Kanamaru's Profile

22歳まで大分県内で過ごし、
東京等で暮らしたのち、24年ぶりに帰郷。
前職の経験を生かして、
総務・社内SEとして、
大分市内の企業で活躍中。

金丸　慎太郎さん（46）

夫婦ともに、大分県内出身で、「妻とは『いずれ大分に帰ろう』と話していた」という金丸さん。

「妻の就職先が先に大分市内に決まったため、妻と子どもだけ先に大分へ移住させ、一人で東京に残る覚悟もしていた」という。

金丸さんは、大分市内の学校で情報技術を学び、23歳の時、都内の企業にシステムエンジニアとして採用され上京。友人や職場の仲間にも恵まれ、プライベートでは同郷の妻と、一男一女をもうけるなど、幸せな毎日を過ごしていた。ただ、常に心の片隅には、「大分への思い」を持ち続けていた。

新型コロナウイルス感染症の流行によって、実家に1年以上帰省できない状況が続いたことや、お互いの両親の将来のことから、ついに移住を決意した金丸さん。「生まれ育った大分に貢献する」との思いを胸に抱きつつ、大分での新たな仕事や住まい探しをスタートした。

おおいた産業人財センター 熱心なサポート

おおいた産業人財センター

東京で開催されていた移住相談会、「おおいた暮らし塾」に参加した金丸さんは、ここで「※おおいた産業人財センター」のスタッフと出会い、これまでに培った情報技術のスキルを生かせる、大分市内の建設コンサルタントに総務・社内システムエンジニアとして転職が決まった。

大手の転職支援サービスとの違いを尋ねると、『スタッフのきめ細やかなサポートと大分に帰って来て欲しいという情熱だ』と語る。

※大分県内への移住を希望する方の就職を支援する機関（大分市内）。

また、金丸さんは自宅として戸建てを購入。その際、「大分市移住者居住支援事業（令和3年度時点）」の補助金を利用できたことは、移住の後押しになったという。

大分市での生活について（通勤時間が激減）

金丸さんに、東京と大分市での生活で変わったことを伺うと、「東京では、自分の仕事が会社の役に立っているかが見えづらかったが、今の会社では、上司や同僚とのコミュニケーションも上手く取れていて、社内で頼りにされていることに、大きなやりがいを感じている」との答えが返ってきた。

また、「大分に来てから、通勤時間が片道90分から10分になった。今は子どもと家で食事ができることが本当に幸せ。」と柔和な笑顔で語ってくれた。

仕事探し・住まい探しをサポートします！

大分市内には、“大分での就職”を応援するおおいた産業人財センターや、創業を支援する大分市産業活性化プラザがあり、仕事探しのサポート体制が整っています。また、住まいに関しては、「大分市住み替え情報バンク」で空き家情報を紹介しており、同バンクの物件を購入・賃貸する場合や、新築する場合の補助制度もあります。その他大分市の最新の移住情報は「大分市移住応援サイト」をご覧ください。

大分市役所　おおいた魅力発信局
〒870-8504　大分市荷揚町2番31号
TEL 097-578-7749
E-mail miryoku@city.oita.oita.jp

大分市移住応援サイト

暮らして実感 大分市はこんなまち

市の担当者から

大分駅府内中央口広場。
地上80mの展望露天風呂もすぐ目の前。
（写真左の建物）

移住を希望される方へ

県都大分市は人口約48万人。ラグビーワールドカップの開催地の一つとして大いに盛り上がり、国内外から注目されている元気都市。大分駅には大型商業施設が併設されており、医療施設や文化芸術施設も充実しています。暮らしやすい都市の環境と豊かな自然を併せ持つ“ちょうどイイ”まちです。温泉地の別府・湯布院にも近く、大分市自体も県内第4位の源泉総数・湧出量を誇ります。

Advice & My Favorite

別府市に住む。

interview 02

別府市に訪れた時の直感で移住を決める

Yagi's Profile

栃木県に住んでいた
2007年、旅行で初めて訪れた
別府の魅力に引き込まれ、
2013年に移住して
カフェを経営している。

八木みちるさん（48）

「温泉」と「地獄」が別府のイメージだったという八木みちるさん。旅行で立ち寄ったのも「正直に言うと、湯布院や黒川温泉のついでだった」そうだが、初めて訪れた別府の魅力に引き込まれ、移住を決意するまでに。

「住んでいた栃木になかった海にすごく憧れがあって、坂の上から一直線に別府湾まで伸びる九州横断道路からの眺めがたまらなく良かったです。まちも路地裏やアーケードの商店街など古いものと新しいものが混在する雑多な感じがとても良かったし、人の優しさも移住の決め手でした。海や人、街並みなどいろいろなものが重なって、直感的に〝ここだっ！〟と思って」移住を決めたという。

八木さんが感じた別府の魅力を周りの人にも知ってもらいたいと、移住前に会社の仲間と一緒に旅行に来るほど別府に〝はまった〟そうだ。

交流の場「コトリカフェ」を移動販売車でオープン

栃木県では、『お店をつくって。まちをつくろう』というワークショップに参加しており、「別府に移住したら地域を活性化できるようなお店をしたいと考えていました。それで、地域の人や観光客の交流の場になるようにと思って」と、移動販売の『コトリカフェ』をオープンした。始めた頃は、出店場所を貸してもらったりお店に来てくれたりと、地元の人の温かさに助けられた。「困っている人や頑張っている人を応援してくれる感じがありますね」と話す。

現在では、「さらに別府に根付いた生き方をしたい」と移動販売に加え店舗もオープンした。

別府八湯温泉道名人会副理事長として別府の魅力を伝えたい！

別府に住んで良かったと感じることは「温泉が入り放題（笑）。風邪をひかなくなった」し、肌の調子も良くなりました」と、地域の人で利用する共同温泉を楽しんでいる。

都会で働いている頃は、コンビニの店員さんと話すだけの日もあったそうだが、「共同温泉では、挨拶から始まり一言、二言と会話のふれあいがあるのが良いですね。ただ、入り込み過ぎないよう絶妙な距離感も保ってくれるところもあると思います」。

一人になりたい時は貸し切り湯に行くなど、気分に合った雰囲気や泉質の温泉を選べるのも別府の魅力だそうで、現在では88箇所の温泉を巡った別府八湯温泉道名人会の副理事長も務めている。

「別府の魅力を伝え、旅行に来てくれる人を増やしていきたいです。来れば、好きな人にはたまらない〝別府の魅力〟にはまると思うので、移住する人も増えると思います」と地域活動にも頑張っている。

別府八湯温泉道名人会のメンバーと

暮らして実感 別府市はこんなまち

八木さんから

休日の過ごし方は？

県外の友人を案内したり、湯めぐりや海の見えるカフェでゆっくり過ごしています。今年から名人会の活動で地域の共同温泉の運営にも携わっています。

Advice & My Favorite

市内にたくさん！共同浴場

名人会が運営に携わる「寿温泉」。
1Fが共同浴場、2Fは地域の公民館となっており、
このようなスタイルの共同浴場が市内にはいくつもあります。

おためし移住施設で「べっぷ暮らし」を体験してみませんか？

別府市への移住を検討している方を対象に別府での移住生活を体感いただける、おためし移住施設をご用意しています。

施設には生活に必要な家電等・消耗品（衛生用品を除く）もあります。詳細はHPでご案内しておりますので、是非ご覧ください。

別府市役所　産業政策課
〒874-8511　別府市上野口町1番15号
TEL 0977-21-1132
E-mail cin-te@city.beppu.lg.jp

おためし移住施設